



## 東京湾再生官民連携フォーラム 令和4年度 第1回企画運営委員会 議事メモ

1. 開催日時 令和4年 5月26日(木) 13:30-15:00
2. 開催場所 Zoom 利用による会議 (一部対面参加)  
事務局運営 みなと総研会議室 3F  
(東京都港区虎ノ門 3-1-10 第2 虎の門電気ビルディング)

### 3. 議事次第

#### 《審議事項》

- (1) 令和3年度事業報告(案)、決算(案)及び監査結果について

#### 《報告事項》

- (1) 東京湾再生推進会議 次期行動計画の方針等について
- (2) PT活動報告
- (3) フォーラム監事監査指摘事項報告
- (4) PT 長会議について
- (5) 東京湾の日 第2回川柳&photo コンテスト募集について
- (6) 冊子発行 (仮称)東京湾の未来について
- (7) その他

### 4. 出席者 (敬称略)

來生議長\*、中村委員、佐々木委員、古川委員\*、細川委員、松井委員、斉藤委員、牧野委員、木村委員、竹口委員\*、芝原委員、森岡代理、佐藤代理、衛藤委員、行木委員、浅野代理、和田委員、石塚代理、飯塚委員(代理対応)、秀平代理、石井委員、二宮委員、山内委員、板戸委員、細川(事務局)\* 25名出席 (このうち\*印が会場にて対面参加)

### 5. 議事概要

#### 5-1 開会

- (1) 事務局: 出欠および資料の確認

4月に入り、新たに着任された委員の方々をご紹介します。

国土交通省港湾局海洋・環境課長 衛藤 謙介委員、東京都港湾局港湾整備部計画課環境対策担当課長 和田 文典委員、神奈川県 県土整備局河川下水道部 下水道課長 飯塚 健委員、横須賀市建設部港湾企画課長 板戸 淳委員。

(国土交通省港湾局海洋・環境課長) 衛藤 謙介 委員

「この4月に参りましたが、前職・関東地方整備局におりましたので、この東京湾再生の取り組みには、馴染み深いものになっているので引き続き先生方にお世話になります。」

(東京都港湾局港湾整備部計画課 環境対策担当課長) 和田 文典 委員



「この会議は、初めてなので今後勉強してきたいと思いますので、皆さんよろしくお願ひします。」

(神奈川県 県土整備局河川下水道部 下水道課長) 飯塚 健 委員(代理対応)

「課長、本日、急遽所用のため代理で対応させて頂いております。よろしくお願ひします。」

(横須賀市建設部港湾企画課長) 板戸 淳 委員

「初めてになりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。」

(2)開会挨拶(來生議長)

## 5-2 議事

### 《審議事項》

#### (1)令和3年度事業報告(案)、決算(案)及び監査結果について

##### 【決定事項】

**令和3年度事業報告(案)、決算(案)は承認された。**

(事務局): 審議資料1 説明

事業報告(案)の最初に主なトピックスを10項目掲示し、その後それぞれについて詳細説明を記載している。最後33ページ以降、東京湾官民連携フォーラムの第三期に向けた政策提案を掲載している。

報告書(案)の1.項目は、第三期に向けての作業部会を作り、フォーラムから東京湾再生推進会議への提案を作成した。その成果の提案書を2.項目の東京湾再生推進会議幹事長の海上保安庁服部参事官に來生議長からお渡した。

3.項目、PT 関連の特徴的活動として、東京湾の窓 PT のアウトリーチ活動の報告。ふなばし三番瀬環境学習館のご協力を得て、PT 連携活動の展示をおこなった。4.項目、5.項目は会議体の説明になる。7.項目は、新設の PT 報告。8.項目は東京湾大感謝祭 2021 がオンラインで行われたことなどの報告を掲載した。

いくつかの項目につき、詳細を見ていく。第三期に向けてのワーキンググループでは、第三期の東京湾再生基本計画の官側の本格検討が始まる前に、東京湾再生官民連携フォーラムから提案を行った。次の10年間の目標や課題解決に向けての議論を重ねた。企画運営委員のご協力を得てワーキンググループ会議を5回実施した。PT 長へのアンケート調査なども併せて実施して提案への反映に努めた。その結果、R3年度事業報告書(案)末尾の33ページ以降の文書にまとめることができた。

3. 交流連携事業の一つとして、CSR-NPO 未来交流会を開催し、企業の CSR 活動と市民 NPO 活動との交流機会を提供した。

「10月1日・東京湾の日 川柳&フォトコンテスト」を実施して、それぞれ沢山の応募を頂いた。川柳では廣木様が大賞を獲得し、フォトコンテストでは小山様が大賞を獲得した。本年度も引き続き行っていく予定にしている。



東京湾窓 PT は、みなと総合研究財団の助成支援を受け、Facebook でのアウトリーチ活動を実施し、事務局はその支援をおこなった。

PT の活動の紹介展示を、ふなばし三番瀬環境学習館で行った。モニタリング PT と東京湾の窓 PT の連携により「江戸前勉強会 2022 特別版」が実施され、フォーラムが共催した。

東京湾再生官民連携フォーラムが「ローカル SDGs を学ぶ」((一財)セブン-イレブン記念財団主催)に参加した。

報告書 12 ページからは、会議体の説明になる。「企画運営委員会」を 3 回実施、令和 3 年度通常総会を 1 回おこなった。第 3 回の企画運営委員会では、「多摩川河口干潟ワイズユース PT」(PT 長・竹山 佳奈 氏)の設立が承認された。

16 ページからは、令和 2 年度の PT 活動について示している。

東京湾環境モニタリング PT では、東京湾再生推進会議と共同して東京湾環境一斉調査を実施し、そのとりまとめ行って「東京湾環境マップ」を作成した。

生き物生息場づくり PT では、底質改善を行った場所でのマコガレイの産卵調査を実施した。

指標活用 PT は、政策提案した指標が活用されてきたが、その整理などのサポートを行い、さらに、この指標群の中で現況計画の進展状況検討を行なっている。

東京湾大感謝祭 PT では、R3 年はオンラインの東京湾大感謝祭を実施した。「スペシャルトーク」で環境省 中井事務次官、国土交通省 高田大臣官房技術総括審議官の講演など中身の豊富なプログラムを実施した。

パブリック・アクセス PT は、政策提案のフォローアップを行った。

海水浴復活の方策・検討 PT は、コロナ禍の中で現地での活動が大変なところ「里海まつり」を実施するなど、海水浴体験を広める努力をした。

江戸前ブランド PT は、東京湾大感謝祭を中心に、江戸前水産物の PR 、食育活動を行った。

東京の窓 PT は、東京湾岸の学習施設による共同研修会、環境教育プログラムの連携を通じて、相互連携を取りながら充実を図ってきた。

東京湾再生官民連携フォーラムは、民間の活動の共催、後援、協力などを行った。国土総合政策研究所のシンポジウムの後援などを行った、「東京湾の日・10月1日」ポスターを作成して PR を行った。会員へのメール配信を合計で 21 回実施した。

25 ページの会員の状況について示した。12 月 31 日現在、個人会員で 328 人、団体会員が、133 団体となり、少しずつ増えている。

フォーラムの活動の外部 PR 活動を示した。各 PT 長の尽力により全部で 60 回になった。

33 ページからは、東京湾再生官民連携フォーラムから東京湾再生推進会議へ提出した第三期に向けた政策提案になる。第二期を踏まえ第三期 10 年、新しく取り組む提案が含まれている。

この活動の実施経費を決算にまとめた。

令和 3 年度決算書の収入は、個人会員からの寄付が 70,000 円、(一財)セブン-イレブン記念財団からの支援資金が 3,997,969 円、前年度の繰越と合わせて、合計が 4,108,223 円となる。



支出の部は二つに分かれており、上段は、(一財)セブン-イレブン記念財団の経費で充当する支出について整理、下段は、(一財)セブン-イレブン記念財団助成の対象外について整理してある。助成金の対象になる部分は、事務局運営経費として人件費、その他、Zoom 費用、郵便料金など 2,861,000 円を計上している。フォーラムの事業費として、交流会の費用など合わせて、1,136,969 円を計上している。全体で 3,997,969 円の支出となっている。

(一財)セブン-イレブン記念財団の助成金のルールとして、費目毎の精算を行い、予算の余剰金額は返金することになっている。その合計金額が 247,334 円となる。返金額として支出に計上した。

助成の対象外は、例えば、会議のお茶代、タクシー利用などが該当する。個人からの寄付金収入や繰越金をこれに当てている。助成対象外の支出の合計が 76,898 円で当該年度寄付金収入よりも少しオーバーした金額の支出になった。支出の総額が、4,074,867 円になり、総収入額に対して繰越金額を除いた単年度の収入に対する単年度の収支の差額で見ると 6,870 円の赤字となった。赤字分を繰越金から充当し 33,356 円が、令和 4 年度への繰越金額となる。以上が収支決算である。監事には、令和 3 年度事業報告書(案)と決算(案)を監査していただいた。監査報告を添付している。

#### 【審議経過】

來生議長

ご報告を頂いた事業報告書(案)、決算(案)、監事報告について、何かご質問なりご意見がある方は発言をお願いします。

古川委員

ご報告いただいた内容については全く異論ありません。PT の交流事業の実施というところで(4)の江戸前勉強会の特別版、江戸前勉強会の本体についても東京湾の窓 PT、指標活用 PT、生き物生息場づくり PT、PT 長の方々を通して参加を呼びかけて頂いたということで連携事業にあたると思う。ここで改めてご協力いただいたことに対して感謝を申し上げたい。

來生議長

他に意見がないようなので、令和 3 年度の事業報告書(案)は承認を頂いた。決算(案)について何かご質問ご意見があればお願いします。監査結果については、報告をいただいた。特に意見がないようなので、決算(案)をご承認いただいたということとする。審議事項は以上となる。

來生議長

報告事項に入る。まず、東京湾再生推進会議次期行動計画について、海上保安庁さんからご説明をお願いします。

#### 《報告事項》

##### (1) 東京湾再生推進会議 次期行動計画の方針等について

(海上保安庁 海洋情報部 大洋調査課) 森岡 代理 報告資料(1)



代理となる森岡から説明する。次期計画策定の動向について報告させていただく。昨年度から引き続き次の行動計画について検討が始まり、現在真最中となる。昨年の3月に東京湾再生推進会議 幹事会が開催された。そこで令和5年度以降の次期行動計画の方針が決定した。資料は、この方針の本文とスケジュールである。

まず、方針の本文をかいつまんで説明する。

第二期において、各施策について簡単にまとめている。陸域対策については、下水道整備や高度処理の促進、合流式下水道改善など汚濁負荷の軽減策を各種実施してきている。

海域対策については、汚泥対策や覆砂、浮遊ごみの回収、浅場、藻場などの創出などの各種施策と共にアピールポイントにおいては、イベントの開催など市民が実感できる取り組みを進めてきた。

モニタリングは、東京湾全体で継続的に行い、そのデータを提供してきた。市民団体を含む多様な主体によるモニタリング活動として東京湾再生官民連携フォーラムとの共同事業の形で、「東京湾環境一斉調査」を推進してきた。

東京湾全体の環境に目を向けると、平成27年に「持続可能な開発目標 SDGs」の国連での採択、昨年の1月には「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」など国際動向でも環境について大きな動きが見られた。国内においても第5次環境基本計画や生物多様性国家戦略などの各種施策の更新などが行われ、それに基づいて新たな施策の検討などが始まっている。その一つの例は、2050年カーボンニュートラルという目標に向けて、政府全体として地球温暖化対策計画などの各種計画が閣議決定されるなどの動きも見られる。

このような中で、国土交通省でも、令和3年12月に環境行動計画が策定され、その中に「東京湾再生のための行動計画」とも関連のある「魅力のある水辺空間の創出」という取り組みが掲げられている。一方で地方公共団体の財源に限られる状況もあり、効率が今後求められる。

東京湾再生官民連携フォーラムからの次の行動計画「第三期に向けた政策提案」をいただいている。その中で「第二期の目標の再設定」、「東京湾背後人口3千万人とのつながりの提案」など各種のご提案いただいております。これらについて、「次の計画についてどのように取り込んで行けるか」ということを今まさに検討している。地方公共団体にアンケートを行い、「これからの重点的に取り組みたい、取り組む予定の施策」を問い合わせたところ、海域対策では、「資源回復を目的とした底質の改善」や「経済活動の維持と自然環境の保全との両立」また「各自治体が有する新技術情報の共有」といったことについて、コメントを頂いている。

以上のような状況を踏まえて、東京湾再生プロジェクトにおける令和5年度以降の取組方針は、「これまで各種施策を実施しており長期的に一定の成果が得られてきたが「未だ特に第二期の行動計画で定められた評価指標の全ての達成には至っていない」と考えている。

また、「東京湾再生官民連携フォーラムにおける活動によって、課題や科学的試験の多様な主体の間における共有やネットワークの構築、東京湾大感謝祭の開催と多くの市民の参加を促した」。この取り組みによって東京湾再生プロジェクトは、大きく進んだと考えている。まさに東京湾再生官民連携フォーラムの効果が高く評価されている。



自然環境、社会環境は常々変化しているので、2050年カーボンニュートラル目標に対応するために関係省庁、自治体と東京湾再生官民連携フォーラム等が協力し合って、「東京湾背後人口3千万人の心豊かにする東京湾を創出していく」という新たな目標の達成に向けて適切な体制が必要である、と結論づけている。この方針に基づいて、さらに次の計画の策定の検討に入っている。

スケジュールについても簡単にご説明する。

今年の3月の幹事会にて決定したスケジュールとなる。今年の7月ごろを目途に臨時の幹事会を開催、次期行動計画の骨子を決定していくことを考えている。その骨子を踏まえて、12月頃また幹事会を開き、次期行動計画の素案を確定させる、年度末3月頃にかけて、さらにブラシアップを進め、3月に東京湾再生推進会議を開催して、次期行動計画を決定していくという流れを想定している。

東京湾再生官民連携フォーラムの皆様におかれても、既に、政策提案ということでご意見をいただいているが、この次期行動計画について、いろいろご意見などいただければと思っている。またそういう意味で、次の行動計画の策定については、いろいろご相談をさせていただきたいと考えているのでどうぞよろしくお願い申し上げます。以上。

來生議長

ありがとうございました。ただいま、ご説明を頂いた東京湾再生推進会議の次期行動計画方針等について、質問があればおねがいする。最後にご説明があったように、次期行動計画について、今後、フォーラムからも色々お願いをすることもあると思う。密接に相互の情報交換を行いながら、今年度進めていければと思う。

#### 《報告事項》

#### (2) PT活動報告 令和4年度の活動計画について (各PT長)

モニタリング推進PT：(古川PT長)：報告資料(2)1-1説明

古川PT長

報告資料(2)1-1ということでご参照ください。

東京湾環境モニタリング推進PTでは、令和3年度PT会合は全てメールベースで行った。「東京湾環境一斉調査」は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の影響で準備が9/16となり、148機関での調査が行われた。調査の実施にあたって打ち合わせに参加したり、広報に協力したり、ワークショップを開催したりと、足並みを揃えて実施してきた。成果をまとめた「東京湾環境マップ」も作成することができた。また、連続ワークショップとして、「江戸前勉強会」を10月から12月まで6回開催した。その報告については、「どんなことが今、東京湾で問題になっているのか？また、こんなことを行ったら、どうなのだろうか？」など具体的な提案を参加者がワークショップスタイルで取り纏めたものになっている。配布資料の後ろに添付している。

「東京湾環境一斉調査」の実施にあたり、生物調査は正式項目ではなかったが、調査報告については受け取ってもらえるということでボランティアに実施した。その際に、「特別採捕許可」が必要になるということで、「東京湾の環境を良くする会」と連携して三番瀬の調査などでの「特別採捕」に



つきフォーラムの活動として許可を頂いた。ありがとうございました。

令和4年度の計画としては、「東京湾環境一斉調査」については 6/2 に一斉広報が行われるのでそこでご連絡する。水質調査の基準日は 8/3 というのですが、改めて広報のときのご連絡を読んでもください。引き続き「江戸前勉強会」を実施したい。また「あさりワクワク調査」の「特別採捕許可」も、フォーラムにご協力、ご支援をお願いします。以上。

## 生き物生息場づくり PT : (佐々木 PT 長) : 報告資料 (2) 1-2 説明

佐々木 PT 長

資料の 2 ページ目に PT のミッションと活動を示す。

①「ブルーカーボンを含めて生態系サービスの強化に資するような生き物生息場作りの提案とそれを社会実装に結びつけていく」ということを大きなテーマとして掲げている。一つの行政部局だけでは実現が困難なプロジェクトがいくつかあり、そういったものを発掘できないか考えている。市民や企業からの皆さんからのご提案なども取り上げたい。企業、資源部局などから、十分活用されていないような資源の活用などを含めて、新たな提案ができないかと考えている。

②「科学的かつ持続的な活動の推進」ということで「提案」に関しては、科学的な裏付けが大事で、また「提案」して実施する活動の内容については、モニタリングをしながら「上手にしているかどうか？問題はありますか？」などを含めながら、あるいは、「正確に効果を発揮しているか？」そういったことを見ながら行っている。

3 ページの図は PT 活動「生き物生息場づくりのマコガレイ産卵場の底質改善のプロジェクト」を政策提案し、これを社会実装という形で進めてきた。このプロジェクトは、主に港湾部局からの浚渫土砂の有効活用と、水産部局の協力による「どのような場所で行うべきかの科学的知見の提示」と「漁業者の調整」とをいただく、といった連携で、皆さんの協力により進められてきた。今後、河川部局のご協力で、河口の土砂をうまく活用できるようなことがあるのではないかと期待をしている。

また図の一番上のところを見ていただくと、市民 NPO あるいは企業、「特に、地元の企業の方からの防潮堤前面で何かできないかというような」、要望やアイデアなどいただき、それらを含めて行っていければと考えている。第2回マコガレイ釣り調査報告は 3 月に基本的報告を終了している。マコガレイ釣り調査を報告後の 3 月 27 日に行った。「マコガレイ産卵場の底質改善の産卵調査」は、毎年 12 月に行っている。それに加えて、「親魚まで育てていくのか」のモニタリングも兼ねて、釣り調査を始めている。

4 ページ目の R4 年度の計画では、野外での活動を重視したい。東京湾東岸水路の干潟群(旧海岸線)で生息場の観察会を 5 月 30 日に実施する。PT 内の「再生目標生物 WG」で計画している。また、習志野市茜浜海岸周辺も「今後、環境再生ということで何かできないか」を検討しており、夏に見学を検討している。現地調査に関しては、12 月に例年の通りマコガレイ産卵場調査、年度末の最終日曜日にマコガレイ釣り調査を予定し、東京湾大感謝祭への出展を検討している。



## 指標活用PT：(岡田 PT 長 /事務局代理報告) 報告資料 (2) 1-3 説明

事務局代理

PT 長からの資料をご紹介します。

指標活用 PT では、「市民データ」と「データ整理・評価」の二つ WG の活動があり、それぞれに R4 年度の計画を立てている。

市民データ WG は、5 月 19 日に Web 会議を実施し、例年通りアンケート調査の実施、6 月調査票の作成、8 月にアンケートの実施、9 月～10 月に取りまとめ、11 月に最終報告のスケジュールを計画している。

データ整理・評価 WG は、最終報告に向けた各指標のデータの整理評価を昨年 10 月から月一回の頻度で Web 会議で実施してきている。5 月の Web 会議では、各指標データの整理手法を確認し、5 月 24 日手法の最終決定を行った。6 月から 10 月にかけてデータの整理を東京湾再生推進会議側と行い、11 月に最終報告書 PT の担当部分を作成する計画にしている。

## 東京湾大感謝祭 PT：(木村 PT 長)：報告資料 (2) 1-4 説明

木村 PT 長

PT 長報告資料にあるように、すでに「東京湾大感謝祭 2022 募集要項」を案内しており、これで募集開始となる。今年は 10 月 15 日、16 日と横浜大榎橋ホールで実開催と Web 開催の併用を予定している。実開催にあたり、ここ 2 年の web 開催が祟っているのかもしれないが、出展応募状況が非常によろしくない。是非、皆さん方からもお声がけしていただき、参加者を増やして頂くとともに、皆さんからもご出展をお願いします。特に、ここにいらっしゃるメンバーは、出展していただき活動を伝えていくというのは、もう、must と思うので、是非、そういうつもりで取り組んで頂ければありがたい。

## 江戸前ブランド育成 PT：(牧野 PT 長)：報告資料 (2) 1-5 説明

牧野 PT 長

PT の活動方針は、「まず、東京湾の海の幸を知っていただき、食べていただき各家庭の食卓との東京湾とのつながりを感じるところから、ライフスタイルの変化、エコで美味しい江戸前というブランドを中継していく活動」にある。

各メンバーが江戸前ブランドを PR し、情報発信していただく活動を実施している。PT 全体としても東京湾大感謝祭を中心に体験プログラムなどを実施している。この 2 年間、Face to Face によるタッチプール、港まつりなどの実施や出展ができないでいる。オンラインで色々なコンテンツを作成し、発信することに注力して来た。

一番効果が大きかったのは、東京湾大感謝祭に合わせて作成した様々な動画の配信だった。バーチャル料理教室は、東京湾大感謝祭に合わせて、実際に東京湾で採れる魚を首都圏の皆さんの家庭に事前に送って、動画を見ながらその魚をさばっていただく・料理をしていただくという教室。2 年間実施し、動画によって人気はバラバラだが、例えば、「真鯛の塩釜焼きの作り方」は、1 年間で 5 万ページビューにのぼる。東京湾大感謝祭の参加者が 10 万人として、その半分の方がこ





の動画を見たということで、一定程度の効果があると思う。また資料 4 頁に他のPTメンバーの方々の動画を示す。PTとしても応援していきたいと思っている。今年コロナが治まれば、face to face のイベントもPTメンバーも再開できる。

PT全体として東京湾大感謝祭のステージイベントも企画立案している。来月上旬には、水産庁とも打ち合わせ予定となっている。この2年間の実施で、オンラインの資料は江戸前PTの資産で、PTの各メンバーもオンラインでの情報発信など継続できるので、今後もオンラインの資料を使って各家庭の食卓と東京湾のつながり再構築を進めたい。また横の繋がりを作りたいので、特に「環境教育」とか「食育人材育成」がとても重要なので、他のPTとの横断的な連携を進めたい。そこもかねて、今年度の東京湾大感謝祭で今考えている企画の発表あるいは情報発信として「教育者向けの食育プログラム」の実施をPT内で検討している。

各PTのメンバーが作った様々なオンラインコンテンツをまとめ、江戸前PTとしてのページを作成したいと思っている。コンテンツ、資料を他のPTの皆様にも有効活用して頂けるような仕組みをつくりたいと思う。

#### 東京湾パブリック・アクセス方策検討PT：(竹口PT長)：口頭説明

竹口PT長

政策提案のフォロー活動など。

#### 東京湾での海水浴復活の方策検討PT：(関口PT長/事務局代理)：口頭説明

事務局代理

令和3年度事業報告から活動を紹介する。令和3年度、葛西海浜公園では活動実施できたが、お台場の海水浴場では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会により実施できなかった。令和4年度では両方の海で可能性がありそうだ。PT長会議での田中代理のご発言では、「海水浴復活PTは、政策提案型と事業実施型の活動の二本立てとなっている。海水浴の場所を増やすことは難しいが、里海、地域を考えた俯瞰的な活動に広げていきたい。」とのこと。

#### 東京湾の窓PT：(芝原PT長)：口頭説明

芝原PT長

窓PTでは、みなと総合研究財団の助成制度によりスタンプラリーとFacebookでの情報発信を行ってきた。令和3年度は研修を実施した。令和4年度は、みなと総合研究財団の助成が切れることもあり、スタンプラリーは実施しない。Facebookページは継続する。東京湾大感謝祭の出展については、今後検討していきたい。第二期から第三期の移行期に東京湾の窓PTも今後の活動については、継続するのか終わりにするのか検討していきたい。



**多摩川河口干潟ワイズユース PT : (竹山 佳奈 PT 長/事務局代理) : 口頭説明**

事務局代理

PT 長会議での発言を紹介する。「今年度立ち上げて、多摩川スカイブリッジ周辺、多摩川河口干潟を中心にして色々なことを繋げられる PT にしていきたい。具体的には学術的な研究を生物多様性調査として実施、地元住民からキングスカイフロント周辺企業、国内外の観光客を対象にした多摩川の河口干潟、CSR 活動などとして生き物の調査を実施予定です。」

來生議長

何かご質問があればお願いします。なければ次に進める。

**《報告事項》**

**(3) フォーラム監事監査指摘事項報告**

事務局

監事の監査の折、いくつかのご指摘をいただいた。有益なヒントがあった。資料に沿い紹介する。

- ①監査の実施で令和3年度事業報告(案)、決算(案)の監査を行い、監査報告書が作成された。
- ②フォーラム活動に対する以下4点の指摘があった。
  - ①財務の改善について:セブン・イレブン記念財団の寄与はとてありがたく提供資金は大切に使われているが、それ以外の資金の調達先拡充にも努力してください。資金支援団体や寄附企業にとって、より魅力ある寄附先・支援相手であるように、フォーラムの活動や広報を考えてください。
  - ②活動プログラムの新展開:小学生会員が誕生した(ファミリーで入会)ことは、とても良いこと。入会のきっかけになった東京湾の窓 PT でファミリーイベントを企画する、東京湾大感謝祭でキッズプログラムを(別の日でもよいので)企画する等、新しい年齢層・社会層の会員にとっても魅力ある活動を提供することを考えたらいかがか。何を期待して会員になったのか、聞いてみることも大事。
  - ③新しいワイズユース PT:多摩川河口干潟ワイズユースPTへの自治体からの参加は大変重要。多摩川河口干潟とのことなので、関連自治体(川崎市・大田区など)の関連部局にも PT に参加してもらえるように、企画運営委員会経由でもお願いしてみたらいかがか。
  - ④自治体職員の関心や関与の強化: 企画運営委員会に参加している部局ではフォーラム活動への認知が深まっているが、それ以外の部局ではあまり関心がないようだ。「東京湾の日」を記念して「東京湾再生推進会議参加自治体による知事市長会」や「湾岸都県知事会議」など、自治体トップの集まる会を開いたらどうか。

來生議長

監事のご指摘、できるだけ生かすような形で活動していきたいと思う。続いて、PT 長会議報告を事務局からお願いします。



## 《報告事項》

### (4) PT 長会議について

事務局

PT 長会議では、大事な議論があったので、通常は作成しないものの事務局の責任でメモを作成した。個人としての発言ということで読んで頂ければと思う。

○P6-7。「フォーラムから政策提案を提示する時に、受け取った東京湾再生推進会議、行政側がどんなレスポンスかわからない。東京湾再生推進会議側の苦労や議論、課題が見えてこない点がある。」6 ページの最後に、「やり取りのプロセスが必要で、この 9 年、政策提案を東京湾再生推進会議側に提出できるまで至ったが、次の課題は、議論する仕組み、検討の見える化、第二期のフォーラムの活動の中で足りなかった点である。」などの議論があった。第三期に向けての政策提案の中では、「議論のキャッチボール」と題している課題。東京湾再生推進会議側にも政策提案を行う PT の気持ち等もお伝えし、ご理解いただくよう引き続き行っていく。

○P11。「自治体の方にもっと主体的な参加を」という議論があった。3 点の指摘があり、1 点目は、「東京湾再生官民連携フォーラム設立時の議論に、国が縦割りの中で動きにくい部分を自治体では国の政策の良い点を総合的に取り組める」という認識があった。2 点目は、「創設の当時の 7 都県市は、東京湾再生推進会議に参加しており、知事、政令市の市長さんは、東京湾にはより問題意識をもって参加していた。国側もみんなで協力の呼びかけを行っていた。自治体は東京湾再生推進会議の中では、主役のはずだが、時間経過、人事異動などにより担当者に初期からの想いが伝わっていない、振り返りながら何度も議論しなおす必要がある。」との指摘があった。3 点目は、「PT 長会議はすぐにできること、できないことなど含めて、さまざまな議論のレベルが同時に行われている。木村 PT 長発言によれば「大きく変えるという議論は、第三期 10 年かけて行うレベル、大きく変える議論を片一方で行いながらも、第三期のはじめに次どうしていくのか」という議論もある、自治体の関与議論も整理しながら進める必要がある。」という指摘があった。

参考となると思うので紹介した。

來生議長

これからもしっかり議論する必要がある。次に東京湾の日・第 2 回川柳&photo コンテスト募集について事務局の説明をお願いします。

## 《報告事項》

### (5) 東京湾の日 第 2 回川柳&photo コンテスト募集について

事務局

東京湾の日のポスターを作成した「10月1日・東京湾の日」ということで、いろんな活動の一つの集約点に使って頂きたい。もうひとつは、川柳と photo コンテストを東京湾の日に合わせて実施する。募集の期間は 6/1 から 8/31 まで。東京湾の魅力について川柳、写真を撮って応募してください。川柳&photo コンテストチラシの裏面に応募要項がある。今回は監事のご指摘に応じて、川柳



のキッズ部門を新たに設けた。新鮮な目を持っているキッズの応募を期待している。川柳の審査委員長・稲田さんにご相談したら「非常にいいことですね」と応援いただいた。よろしく願いたい。

來生議長

冊子発行「仮称 東京湾の未来」について、これも事務局から願います。

## 《報告事項》

### (6) 冊子発行 (仮称) 東京湾の未来について

事務局

10年間活動してみると「こんなことがあった、失敗や成長した」ということが色々あると思うので、それは記録として残しておきたい。第二期の活動から第三期の抱負についてまで、この10年間の活動についての記録を「仮称・東京湾の未来」タイトルで冊子を作りたいと思っている。

冊子を作ることについては、前回の企画運営委員会でご承認いただいた。より魅力的でみんなが役に立つというようなものに作り上げたいと思う。企画のお手伝いまたは企画のアイデアを募っていますので、企画運営委員のご協力をお願いしたい。冊子企画編集会議を6月に開催したいと思うので、是非、ご参加頂ければと思う。

なお、PT 長会議においても話題となったが、第二期計画を担当された行政の方、東京湾再生官民連携フォーラムの設立に関わった方に原稿をお願いする作業を始めている。

來生議長

是非ご協力のほどをお願いしたい。10年ひと昔で継続的に参加していると「あつと言う間です」が、行政の方、企業の方は、ポジションが変わられるということが一般的で、今、ご担当の方が「どれぐらい昔のことをご存じか」ということもPT長会議の話題となった。「出発点から10年の活動ということ振り返るということは大事なこと」だと思ふ。

### (7) その他

特になし

#### 5-3 閉会

事務局

企画運営委員会議論にご参画いただきましてありがとうございます。海上保安庁さまから第三期計画の立案スケジュールのご提示をいただき、手順をイメージできたと思う。PT 成果の取り纏めなどでスケジュールにご配慮頂ければと思う。第1回の企画運営委員を終了させていただく。

以上